

第4学年1組 虹の輪学習指導案

授業日 平成29年9月29日 (金) 授業A
授業者 附属新潟小学校 教諭 梅津 祐介
会場 4年1組教室

1 単元名

新潟市、再発見－魅力度アッププロジェクト－

2 本単元の価値

本単元の目標は、次の通りである。

まちの魅力を発信するために活動している野内隆裕さんの生き方に共感やあこがれを抱き、野内さんと同じようにまち歩きを実践することによって、その社会的な価値について考えることができる。

学習対象及び学習事項は、次の通りである。

【探究課題】

世の中に融合する生き方とまちづくり

- ・人 : 路地連新潟代表 野内隆裕さん
- ・もの : まちの魅力
- ・こと : まち歩き

【学習事項】

- ・まち歩き通してまちの魅力を発信している野内さんに出会うこと。
- ・野内さんの話やその活動に触れることを通して、野内さんが活動する価値に気付くこと。
- ・自分が住むまちの魅力を発信する方法を考え、実践すること。

本単元では、新潟のまち歩きの活動を自発的に始め、現在も新潟のまちの魅力を伝え続けている野内隆裕さん（路地連新潟代表）とまち歩きを学習の対象とする。野内さんの生き方について考えさせたり、まち歩きを体験させたりすることで、野内さんの生き方に共感し、自分たちも野内さんと同じように活動したいという意欲を高めていく子どもを目指す。

現在、野内さんは新潟市中央区日和山で「日和山五合目（カフェ・ギャラリー）」の館長をする傍ら、まち歩きナビゲーターとして活躍し、NHK「ブラタモリ」では案内役を務めた。野内さんは1998年から新潟のまちの魅力をWeb上で発信し、2002年からは「小路の風景から楽しみ歩く」という視点で自作の小路案内板や地図を作成してきた。その後、新潟市と共同でまち歩きのパンフレットを作成したり、日和山の再生に取り組んだりしてきた。その活動が評価され、2013年と2014年にグッドデザイン賞（地域づくりデザイン賞）を受賞している。また、「新潟シティガイド」の講師として、その立ち上げの支援にも深く関与し、多様な仲間の輪を広げるとともに、まち歩き観光の促進にも尽力されている。

本単元はキャリア教育としての実践である。総合学習で行われてきたこれまでのキャリア教育においては、様々な職種の大人の話の聞いたり、職場体験をしたりしながら、「どんな大人になりたいか」「どんな仕事に就きたいか」と内省させる授業が多く行われてきた。働くことに夢や自己実現を求めてきたのである。しかしながら、世の中の仕組みの中での自己実現を考える学習では、今ある職業が様変わりしたときに対応することが難しい。どのような職業が生み出されたときにも、子どもが社会的に自己実現する力を身に付けるようなキャリア教育への転換が必要である。だからこそ、特定の職業や組織の中での働き方にとどまらず、自分の思いと行政の思いを共有し、社会的に自己実現している野内さんを学習の対象とすることに価値があるのである。

子どもは、野内さんとまち歩きを対象として学習を進めていく中で、「まち歩きで、まちの魅力を発信したい」という思いを高める。その実現に向けて取り組む過程で、思いをかたちにする難しさを実感し、「野内さんのような相手が満足するまち歩きするには、何を加えたらよいか」という問いをもつ。子どもは、まち歩きのシミュレーションを繰り返したり、地形の専門家から得た情報をガイドに付け加えたりしながら、自分たちのまち歩きを改善していく。そして、つくり手としてまち歩きを経験した子どもは、実感的な理解に基づいてまち歩きの価値を考えるのである。

3 本単元で目指す姿

世の中に融合する取組を実践することによって、その価値を見いだす子ども

具体的には、活動の目的に着目する「見方・考え方」を働かせ、まち歩きの内容を野内さんのそれと比較したり、新しい情報を追加したりしながら改善し、まち歩きを実践することによって得た実感的な理解に基づいて、まち歩きの社会的な価値について考える姿。

4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全25時間（750）

単元カード参照

6 指導の構想

単元の導入で、新潟市のよさを実感する様々なデータ（待機児童数0、自治会加入率1位など）を子どもに提示し、自分たちが住む新潟市の肯定的な印象をもたせる。その後、市町村魅力度ランキングにおいて、新潟市が141位（ランキング圏外）である事実を提示する。これによって、「まちの魅力

度をもっと上げたい」という動機付けが作用し、子どもは学習への意欲を高める。

まちの魅力を探す活動において実際にまちを歩いた子どもは、数多くの小路の案内板が設置されていることに気付く。ここで、まちの魅力に気付く、それを発信している人が既にいることを知るのである。それが、路地連新潟代表の野内隆裕さんである。

子どもは、野内さんと一緒にまち歩きをしたり、活動への思いを聞いたりすることを通して、野内さんにあこがれをもち、「私たちもまち歩きで魅力を伝えたい」という意欲を高めていく。そして、その思いを実現させようとまち歩きのコースをグループで考え、相手がいることを想定しながら実際に歩いてみる（まち歩きのコースには、湊稲荷神社、開運金比羅神社、日和山など北前船に関する場所、旧税関庁舎や願随寺など開港に関する場所、砂丘が体感できる地形などがある）。子どもは、思いが実現に近付いたことに喜びや楽しさを感じる反面、道に迷ったり、説明内容が不足していたりしていることに物足りなさを感じる。子どもは必然的に野内さんのまち歩きと比較し、「野内さんのまち歩きにもっと近付きたい」と考えている状態にある（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

学習の目的（まちの魅力を伝える）の達成状況と、その判断基準について問う。

目的達成の判断基準について考えさせたり、伝える相手について考える重要性に気付かせるための働き掛けである。子どもは野内さんにあこがれ、自分たちのまち歩きの実現に向けて取り組んでいるものの、「どの場所を案内するか」という意識が強く、「誰をガイドするか」「相手のどんな反応を期待するか」ということへの意識が不足している。そのような子どもに、学習の目的とその達成状況とその判断基準について問う。コースを完成させることに意識が向いていたことに気付いた子どもは、**活動の目的に着目する「見方・考え方」**を働かせ、「何をもちまちの魅力度が上がったと判断するか」「伝える相手は、どのような人が適しているか」と考え始める（②思考・判断・表現、③態度）。

子どもは、まち歩きの内容が期待する反応が表れるものになっていないことに気づき、「期待する反応が表れるまち歩きにするには、何を加えればよいか」という問いをもち（②思考・判断・表現）、まち歩きの改善方法について考え始める。

働き掛け2

まち歩きイベントのシミュレーションをする場を設定する。

より具体的に自分たちのまち歩きの改善点を考えさせるための働き掛けである。子どもにとって、地図上でガイドのシミュレーションをすることは難しい。そこで、校舎内をコースに見立てたり、タブレット端末の地図アプリを使ったりする（**ツール活用能力**）ことを提案する。これらの方法でシミュレーションを繰り返した子どもは、**活動の目的に着目する「見方・考え方」**を働かせ、「期待する反応がもらえるまち歩きになっているか」と考えながら、コースやガイドの内容をグループで見直ししていく（②思考・判断・表現、③態度）。

また、**専門家の取組（野内さんのまち歩き）と比較して考える「見方・考え方」**を働かせた子どもは、どこをガイドするかということとともに、歩く途中で何を伝えるかということも考える（②思考・判断・表現）。つまり、途中にもまちの変遷という歴史があり、それに関する知識が不足していることに気付くのである。そこで、専門家（学芸員）の話を聞く場を設定する。それによって子どもは、まちの変遷に関する知識を得ることができ（①知識・技能）、その内容をガイドに追加していく。さらに、絵や図を用いた説明を追加していくなど、野内さんのまち歩きを参考にして、改善を図っていく。

働き掛け3

まち歩きイベントを開催する場を設定し、参加者（受け手）の反応をどのようにとらえるか問う。

学習の目的（まちの魅力を伝える）の達成状況について考えさせるための働き掛けである。子どもは、次頁の図のようなコースを基本としたまち歩きガイドを実践する。イベントの参加者は、初対面かつ、まちに関する知識をもたない大学生である。より現実的なまち歩きになるように、敢えてそのような相手に子どもを会わせる。実際にガイドをすることによって、子どもは参加者の生の反応を感じるとともに、実践の難しさも感じる（①知識・技能）。

また、目的地に到着後、参加者からアンケートを記入してもらい、「こんな場所があったなんて初めて知った」「今度は友達と来てみたい」「もう少し詳しい説明が聞きたかった」などといった内容の記入が予想される。

イベント終了後、子どもに「参加者からどのような反応があり、それについてどう思うか」と問う。子どもは、**活動の目的に着目する「見方・考え方」**を働かせ、まち歩きガイドをした実感的な理解と参加者の反応を関連付けて、学習の目的の達成状況について総合的に判断する（②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け4

「伝えたい魅力」と参加者が「受け取った魅力」に違いが表れたアンケート結果を提示し、どちらを優先させるか問う。

まち歩きの価値を再解釈させるための働き掛けである。子どもは、まち歩きを実践し、伝えたい魅力が伝わったと考えている。このような子どもに、「伝えたい魅力」と参加者が「受け取った魅力」に違いが表れたアンケート結果を提示し、「まち歩きで上手く魅力を伝えられなかったのか」問う。子どもは、**価値観の多様性に着目する「見方・考え方」**を働かせ、二つ（つくり手と受け手）の魅力



のとらえ方について考える。その際、大学生をファシリテーターとしたグループの話合いを行わせる。魅力の伝え方の良し悪しなどの方法的な話合いではなく、まち歩きに価値を迫る話合いをさせるための支援である。子どもは、「どちらも魅力であり、私たちと参加者が感じるものは違って当然」「まち歩きは、ガイドする側とされる側で一緒につくっていくもの」と考え(②思考力・判断力・表現力)、まち歩きの価値を再解釈する。

働き掛け5

まち歩きの解釈やこれまでの取組について、野内さんから評価を受ける場を設定する。

学習の成果を自覚するための働き掛けである。野内さんの活動を手本としてきた子どもにとって、野内さんから評価を受けることはこの上ない喜びである。野内さんから、まち歩きの価値の解釈やこれまでの取組について評価を受けた子どもは、**価値観の多様性に着目する「見方・考え方」**を働かせ、「まち歩きはみんなですべてつくっていくものなんだ。一緒に歩く人が変わると、また新しい魅力を見つけていくことができるかもしれない。まちの魅力がもっといろいろな人に伝わるように、これからもまち歩きを続けていきたい」と考える(①態度、②思考力・判断力・表現力、③態度)。このような姿が、**世の中に融合する取組を実践することによって、その価値を見いだす子ども(Cn)**の姿である。

7 本時の構想 (本時 25/25時間)

(1) ねらい

まち歩きには「伝えたい魅力」と参加者が「受け取った魅力」があることに気付き、二つの魅力の違いが表れた理由を考えることを通して、まち歩きはつくり手と受け手が一緒に魅力をつくっていくものであるという新たな解釈を導くことができる。

(2) 主張(展開) 3Q(45分)

3次の始まりから記述する。

このような子ども(C0)

- まち歩きのコースを考え、実際に歩いてみたものの物足りなさを感じており、野内さんのまち歩きに近づきたいと考えている。
 - ・道に迷って、地域の人から道を教えてもらった。迷ったけど、まちを歩くことは楽しかった。
 - ・地図を見ながら歩くことは難しかった。
 - ・野内さんは地図を見ないでガイドをしてくれたから、安心感があった。

このように働き掛けると【働き掛け1-①】

- これまでの取組によって、学習の目的(まちの魅力度を上げる)を達成できたか問う。
 - ・説明「まちの魅力度を上げたいという目的をもって、学習を進めてきましたね」
 - ・発問「これまでの取組で、学習の目的を達成できたと思いますか」
 - ・発問「実際にガイドをする必要があるわけですね。目的達成のためには、どのような人をガイドするとよいでしょうか」
- ※ 補助発問：「どうしてそう思うのですか」と、まち歩きの参加者に相応しいと考えた理由について問う。

このようになり(C1-①)

- 学習の目的達成に相応しいまち歩きの参加者について考える。
 - ・目的はまだ達成していない。誰かをガイドして初めて目的が達成されると思う。
 - ・魅力度を上げるとは、魅力を伝えること。やっぱり誰かに伝えないと目的を達成することはできない。
 - ・ガイドをする相手は、まち(下町)を知らない人がいいと思う。旅行者とか県外出身者とかね。
 - ・新潟市に引っ越してきたばかりの人や、下町のことを知らない人も目的に合っていると思う。
 - ・まちのことを初めて知ってもらうから、魅力度アップにつながる。★総合②

このように働き掛けると【働き掛け1-②】

- まち歩きを実践することで目的が達成されるのか問う。
 - ・発問「県外出身者のようなまちを知らない人から参加してもらえば、目的を達成したと判断するのですか」
- ※ 補助発問：「目的を達成するためには、参加者の反応が大切なのですね」
- ※ 補助発問：「参加者がどのような反応をしたら、まちの魅力度が上がったといえますか」
- ・指示「ガイドをするときの説明内容や予想される参加者の反応を地図を見ながら考えましょう」
 - ※ ガイドをする際の留意点を赤色の付箋に、予想される参加者の反応を青色の付箋に記述させる。記述した付箋は、地図に添付させる。
 - ・発問「今すぐまち歩きを行うと、参加者から期待する反応がもらえそうですか」
 - ※ 若者(新潟大学学生団体 CANs のメンバー、新潟医療福祉大学の学生20名程度)を対象としたまち歩きイベントを行うことを伝える。

このようになり(C1-②)

- 目的を達成したと判断する参加者の反応を考える。
 - ・まちを知らない人に参加してもらうだけでは、目的を達成したとはいえない。目的はまちの魅力度を伝えることだから。
 - ・魅力が伝わったかどうかは、参加者の反応を見ないといけない。
 - ・まち歩きの参加者が、「また来たい」「まちに興味をもった」と言ってくれたら、魅力度が上がる。

ったと考えていいかもね。

- ・「新潟にもおもしろいものがある」って言うてくれたら、目的を達成したと判断してもいいんじゃないかな。
- ・「友達にも伝えたい」なんていう反応もいいよね。 **★総合②**
- まち歩きの内容が目的を達成するものになっているか考える。
- ・実際にガイドできるのは楽しみ。参加者が満足してくれるようなまち歩きにしたい。 **★総合③**
- ・でも、今の私たちのガイドでは、期待する参加者の反応が出てこないかもしれない。
- ・自分たちのまち歩きには、足りない部分がたくさんある。どこを改善したらよいだらうか。
- ・もう少し地域の歴史や地形について調べてみてはどうだろうか。 **★総合②**

このように働き掛けると【働き掛け2-①】

- 下町の変遷（江戸～現代）について、専門家（みなとぴあ学芸員）の話を聞く場を設定する。
 - ・説明「学芸員の方から、下町の様子の変化について教えてもらいましょう」
 - ・発問「昔と今とでは、まちの様子はどのように変化しているのでしょうか」

このようになり (G2-①)

- 下町の変遷について理解を深める。
 - ・昔は、今よりも川幅が広がったことがよく分かった。
 - ・川の方にまちを広げていって、今のまちができ上がったんだね。
 - ・大きな船は川の真ん中に泊まって、そこから小さな船でお米などを運んだのか。だから、昔は堀がいっぱいあったのか。
 - ・港って、船が着く場所はすべて港なんだね。だから、堀で荷物を降ろせばそこが港ってことだね。 **★総合①**
 - ・今日教えてもらったことをガイドに付け加えていこう。 **★総合③**

このように働き掛けると【働き掛け2-②】

- まち歩きガイドの実践へ向けた見通しについて問う。
 - ・発問「まち歩きイベントをどのような状態で迎えますか」
 - ※ 補助発問：「イベント前日の状態について教えてください」
- まち歩きイベントのシミュレーションをさせる。
 - ・指示「校地内をコースに置き換えて、ガイドの練習をしましょう」
 - ・指示「ipadの地図アプリを使った練習もしてみましょう」
 - ・発問「ガイドの練習をしてみてどうでしたか」
 - ※ コースのポイントの情報量に偏りが無いかピラミッドチャートを使って確認する。

このようになり (G2-②)

- まち歩きイベントへ向けた見通しを立てる。
 - ・参加してくれる人から期待する反応がもらえるかどうかシミュレーションをして、しっかりと準備しておく。
 - ・なるべく広いところでシミュレーションをしないといけないから、グラウンドでやるといい。
 - ・歩く道を決めたり、曲がるときの目印を探したりするために、地図とマップアプリを見比べればいい。 **★社会科① ★ツール活用能力**
- 自分たちのまち歩きの具体的な改善点を考える。
 - ・参加してくれる人たちに「楽しかった」「おもしろかった」と言ってほしいから、ガイドをする場所を増やしたらどうか。今のままでは少な過ぎる。 **★総合②**
 - ・野内さんみたいに歩きながらガイドできるといいよね。目指すは野内さんのまち歩きだ。 **★総合③**

このように働き掛けると【働き掛け3-①】

- まち歩きイベントを開催し、取組を評価させる。
 - ・説明「これからまち歩きイベントを開催します。今日のまち歩きで、学習の目的が達成できるといいですね」
 - ・発問「実際にガイドをしてみてどうでしたか」
 - ・発問「なぜ上手くいったと思うのですか（または、なぜ上手くいかなかったと思うのですか）」
 - ※ 8グループがそれぞれ、1名または2名の大学生をガイドする。
 - ※ 各グループとも出発地「みなとぴあ」、目的地「日和山」を共通とする。
 - ※ 日和山に到着後、参加者にアンケートの記入をお願いする。

このようになり (G3-①)

- まち歩きガイドを実践し、その効果について考える。
 - ・野内さんを意識してガイドをしてみたよ。上手くいったところもあるし、いかなかったところもあった。
 - ・野内さんのように地図や絵を使いながら説明したから、まちの魅力を分かりやすく伝えることができたと思う。参加した大学生はたくさん質問してくれたから、まちに興味をもってくれたと思う。まち歩きで魅力を伝えることは楽しかった。
 - ・質問されたけど、野内さんのように上手く答えられなかった。実際にガイドをしてみると、伝えることの難しさを感じた。

・伝える楽しさと難しさの両方を感じることができた。これがまち歩きか。

★総合①

このように働きかけると【働き掛け3-②】

- 参加者の反応をどのようにとらえるか問う。
- ・発問「参加した方からはどのような反応がありましたか。また、それについてどう思いますか」
- ・発問「参加した方は、どのようなところにまちの魅力を感じたのでしょうか」
- ※ 補助発問：「伝わったと思う魅力の上位3つを教えてください」
- ※ 補助発問：「伝わった魅力」は、皆さんが「伝えたい魅力」と同じですか。

このようになり (C3-②)

- 学習の目的（まちの魅力を伝えたい）の達成状況について判断する。
- ・「また来たい」「まちに興味をもった」という予想した反応があったから、まちの魅力度が上がったと判断してもいいと思う。
- ※ 参加者の実際の反応を付箋に書き、コースを示した地図上に貼る。
- ・何度も私たちに質問をしてくれた参加者もいた。こういう反応があったんだから、私たちの目的は達成したんじゃないかな。
- ※ 伝わったと思うまちの魅力の上位3つをピラミッドチャートを使って考える。1位「湊・港」、2位「北前船」、3位「堀・川」
- ・本当は、どんな魅力が伝わったのだろうか。

★総合②

★ツール活用能力

本時はここから

このように働きかけると【働き掛け4-①】

- まち歩きで伝わった魅力について問う。
- ・説明「今日はまち歩きで伝わったまちの魅力について考えます。授業の最後に、野内さんの感想もお聞きしたいと思います」
- ・発問「皆さんが実践したまち歩きで、まちの魅力が伝わったと思いますか」
- ※ まち歩きイベントの様子を写真で提示する。
- ※ 補助発問：「なぜ伝わったと思うのですか」
- ・発問「何が魅力として伝わったのでしょうか」

このようになり (C4-①)

- まち歩きの成果について考える。
- ・参加者から「また来たい」「友達に伝えたい」という期待する反応があったよ。
- ・期待する反応があったんだから、まちの魅力は伝わっていると思う。
- ・港や砂丘など、川に関連するものが伝わっていると思う。
- ・私たちが伝えたかった「湊・港」、「北前船」、「堀・川」、「砂丘」の魅力は伝わったと思う。

★総合②

このように働きかけると【働き掛け4-②】

- アンケート結果を示し、気付いたことを問う。
- ・発問「参加者が受け取ったまちの魅力は、皆さんが伝えたいものと同じでしょうか」
- ※ 参加者が受け取ったまちの魅力の上位3つを示す。1位「日和山」、2位「日和山展望台」、3位「新瀨は砂のまち（砂丘）」
- ※ 補助発問：「アンケート結果を見てどう思いましたか」
- ※ 「伝えようとして（上手く）伝わらなかった魅力」と「伝えようとしていないけど、（すごく）伝わった魅力」があるのですね。

このようになり (C4-②)

- 参加者が受け取ったまちの魅力について考える。
- ・最終的に参加者が受け取ったまちの魅力はこういうことか。やっぱり「砂丘」はまちの魅力なんだな。
- ・日和山と日和山展望台が上位に入っている。私たちの予想と全然違った。
- ・砂丘の魅力は伝わったけど、他の魅力は上手く伝えられなかったな。
- ・私たち（作り手）は伝えたつもりだけど、参加者（受け手）は違う受け取り方をするんだ。

★総合①

★総合②

・自分たちが本当はまちの魅力をよく分かっていなかったのだろうか。

◎学習課題「参加者が受け取った魅力が、伝えたい魅力と違っていったのは、どうしてか」

このように働きかけると【働き掛け4-③】

- まち歩きで上手く魅力を伝えることができたのか問い、話し合いの場を設定する。
- ・発問「皆さんが実践したまち歩きは、上手く魅力を伝えられなかったのでしょうか」
- ・指示「話し合いの司会者を大学生にお願いしましょう」
- ※ 司会をする大学生は、まち歩きイベントの参加者。
- ※ 司会者は、シナリオに沿って進行する。
- ・発問「伝えたい魅力が伝わらないとダメなのでしょうか」
- ※ 補助発問：「まち歩きって、伝えたい魅力を伝えるためのものなのでしょうか」

このようになり (C4-③)

- 自分たちのまち歩きを振り返り、まち歩きの価値を再解釈する。
 - ・ がんばって伝えたいし、ちゃんと聞いてもらえた。魅力は伝わったと思う。
 - ・ 私は北前船とか港町などの歴史を伝えなかった。だけど、大学生が魅力に感じたのは、日和山や日和山展望台だった。伝えたいことと伝わったことは違うのか。
 - ・ 魅力は人それぞれだから、仕方ないのかな。
 - ・ 少ししが説明していないことなのに魅力として伝わった。その人にとっては、そのことがすごく魅力に感じたってことかな。
 - ・ 私たちが伝えたいことと、参加者が魅力に感じるものは違って当然なのかも。魅力は感じてもらうものだから。
 - ・ まち歩きは、魅力を伝えるためだけのものじゃないんだ。
 - ・ まち歩きは、ガイドする側とされる側と一緒に魅力をつくっていくものなんだ。
 - ・ 魅力は参加者が見つけるもの。まち歩きは、そのきっかけをつくるものかな。

★総合②

このように働き掛けると【働き掛け5】

- これまでの取組について、野内さんから評価を受ける場を設定する。
 - ・ 説明「野内さんから、今日の皆さんの授業の感想をいただきます」

私がまち歩きを始めたのは、自分が住むまちのことを知りたいなって思ったことが始まりなんです。そして、まちを歩いてみたら、歴史や地形などおもしろいものがたくさんあることに気がきました。おもしろいと思ったものは人に伝えたいと思うじゃないですか。それが、今の活動につながっています。今は皆さんがまち歩きを実践してくれて、まちの魅力を伝えようと取り組んでくれています。私が渡したバトンをしっかりと引き継いでくれているんだなとうれしく思います。

伝えたいことと伝わったこと、どちらもまちの魅力なんです。人の興味って、みんな違うじゃないですか。皆さんが話し合っていたように、これからもまち歩きを通して、つくり手と参加者の両方でまちの魅力をつくってあげれば良いなと思います。

- ・ 指示「授業の振り返りを書きましょう」

このようになる (Cn)

- まち歩きについて学んだことを自覚する。
 - ・ 私はまち歩きで、まちの歴史を伝えたいなって思っていたけど、参加した大学生は砂丘を中心とした地形に魅力を感じていた。最初は意外に思ったけど、だんだん地形も魅力的だなんて思えてきた。まち歩きは歩く人と一緒に歩いていくものなんだ。今回は大学生だったけど、別な人と一緒に歩くと新しい魅力を発見できるかもしれない。まちの魅力がもついろいろな人に伝わるようにこれからもまち歩きを続けていきたいし、野内さんのように他のエリアのコースも考えてみたいな。

★総合①②③

- ★ 「まち歩きは歩く人と一緒に歩いていくもの」「歩く人が変わると新しい魅力を発見できる」「これからもまち歩きを続けたい」のように、まち歩きの価値にふれ、これからも活動を続けたいという言葉が、発言やワークシートの記述にあれば、表れとする。

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、_____や_____のように、まち歩きの価値や意味を見いだした姿が見られたかどうかを授業中の発言やワークシートの記述から判断する。
- ② 働き掛けを受けて、四つの「見方・考え方」が働いているかどうかを判断する。
 - ・ 働き掛け1-①②, 2-②, 3-②を受けて_____のように、活動の目的に着目して考えているかどうかを発言や記述から判断する。
 - ・ 働き掛け3-①を受けて_____のように、専門家の取組（野内さんのまち歩き）と比較して考えているかどうかを発言や記述から判断する。
 - ・ 働き掛け4-①を受けて_____のように、結果に着目して考えているかどうかを発言や記述から判断する。
 - ・ 働き掛け4-③を受けて_____のように、価値観の多様性に着目して考えているかどうかを発言や記述から判断する。
- ③ 各働き掛けを受けて、_____のように知識を深めて表現する姿、_____のように課題解決のために情報を整理・分析したり、関連付けたりする姿、_____のように自ら社会に関わろうとする姿が見られたかどうかを発言や記述から判断する。

